



名古屋部会(第14回)

日時：	2018年2月24日(土) 15:00 ~ 17:10
場所：	椋山女学園大学星が丘キャンパス(名古屋市千種区)
参加者：	中学校・高等学校・大学の先生方など8名が参加した。

【内容要旨】

第14回の名古屋部会を経済分野の授業の展開や教材の紹介、カリキュラムの検討を目的に開催した。最初に経済教育ネットワークよりお越し頂いた西村理氏(同志社大学名誉教授)よりご挨拶頂いた。

続いて授業実践の発表が行われ、佐藤央隆氏(名古屋市立はとり中学校)が「東証「授業支援プログラム」活用による「株式」の学習実践報告」と「「財政の持続可能性」を考察・表現する学習実践報告—専門家・関係諸機関と連携・協働した課題追究・解決のための学習活動—」をテーマに発表した。「東証「授業支援プログラム」活用による「株式」の学習実践報告」では株式に関する学習に①東証の教材である「シェア先生と楽しく学ぼう『株式会社のしくみ』」の活用、②東証から講師を招いての授業、③修学旅行での東証 Arrows の見学、を行うことで生徒の興味関心が高まり、意欲的に学習できたことが報告された。また、鈴木深氏(東京証券取引所)より東証では学校での金融経済教育の推進に取り組んでおり、教材や講師派遣で積極的に協力していることが紹介された。「「財政の持続可能性」を考察・表現する学習実践報告—専門家・関係諸機関と連携・協働した課題追究・解決のための学習活動—」では財務省東海財務局や名古屋中税務署、名古屋税理士会から講師を招いての授業実践が報告された。株式の取引のように目に見えない概念について中学生に理解させることの難しさや税制への賛否や財政破綻への危惧等の現在の課題についての授業展開の方法について活発な議論が行われた。

引き続き、今後の名古屋部会の活動の方向性等について協議した。水野英雄(椋山女学園大学現代マネジメント学部准教授)より2015年4月11日の第1回から3年近く続けることが出来たが、参加者が減少していることから一旦休止とし、今後は年2回程度を目途に、「調整さん」を利用して参加者の多い日程で、内容等を参加しやすいように工夫をして開催することが提案された。参加者からは名古屋部会のこれまでの活動の意義からは是非存続して欲しいという声があり、また、各研究会でも参加者、特に若手の教員の参加が少ないことが課題となっていることから、名古屋部会でも若手にさらに声を掛けて参加者を増やしていく方向で、了承された。

最後に、参加者全員の挨拶と水野英雄(椋山女学園大学現代マネジメント学部准教授)より今回で名古屋部会は一旦は休止とするが、再開できるように努めたいので会員の皆様にご協力をお願いしたいと挨拶があった。

文責： 水野 英雄

次回開催予定： 年2回程度の開催を目指して今後調整する。